

電気通信大学 平成17年度シラバス

授業科目名	輪講		
英文授業科目名	Seminar		
開講年度	2005年度	開講年次	4年次
開講学期	7、8学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-学科専門科目-必修科目		
開講学科・専攻	量子・物質工学科		
担当教官名	各教員		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ

【主題および達成目標】

本学科に固有の学問体系についての基本的な知識や手法は、6学期修了時までの専門基礎科目や専門科目の習得の過程で身につけてきた。輪講ではそれを更に発展させ、卒業研究テーマに関わる現代の様々な研究分野固有の学問体系について学ぶ。卒業研究テーマに関係する現代の諸研究論文等を理解する基本的実力を身につけることを目指す。

【前もって履修しておくべき科目】

この科目を履修するために、前もって履修しておくことが必須の科目を記述してください。必須のものがない場合は、「なし」と明記してください。
元来この項目は、ここに挙げた科目の単位を未取得の学生は、当該授業科目の履修が無理であることを意味していますが、厳格な運用には、未取得学生の措置、留年生の増大の可能性、等の問題があり、この項目の運用法については教育委員会での今後の課題としています。本年度は従来通り、学生にこの科目の履修に不可欠な知識・能力を明示するための記述としてお書きください。

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

4年次進級時に、学生はその所属コース（物理・量子工学コース、物質・生命情報工学コース）に関わらず全研究室の中から配属研究室を選択することができる。しかし、所属コースと異なるコースに関わる研究室への配属を希望する場合は、所属コースの専門科目のみならず他コースの専門科目についても十分な履修をしておくことが望まれる。

【教科書等】

各研究室等で適宜指定される。

電気通信大学 平成17年度シラバス

【授業内容とその進め方】

卒業研究配属研究室もしくは関連分野の2研究室程度を単位として通年で実施される。各研究分野固有の学問体系について適宜教科書等に基づいて学ぶ。研究を公表したり議論する基本言語は英語であり、輪講ではそのため英語版の教科書や英語論文を用いる事もある。また、関連研究論文の紹介や各研究室での研究の進捗状況報告等に重点が置かれる場合もある。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

通年にわたる輪講への出席参加の割合、取り組みの積極性、理解度等を総合的に判断する。

【オフィスアワー：授業相談】

他の講義科目とは異なるものであり、研究室で行うものであり特に定めない。

【学生へのメッセージ】

卒研着手までに学んできた学問体系では、個別性や先端性よりもむしろ、広汎な分野に対応できるよう一般性を重視しています。輪講では、既に学んできた基礎的な体系や手法が現代の先端分野に結びつく形で発展・再構築されて行く様が学べることでしよう。基礎的体系が現代の先端科学技術の中で生き生きと機能する様を実感してもらえたいことを期待しています。

【その他】